



マロン ウェーブ

北山田ふれあい友遊
の皆様今日は！

懐かしい歌、
思い出の歌を
一緒に唄いましょう！

令和4年7月27日（水）

マロン ウェーブ





私の城下町

昭和46年（1971年）

唄 小柳ルミ子
作詞 安井かずみ
作曲 平尾 昌晃



こうしどをくぐり抜け
見あげる夕焼けの空に
だれが歌うのか子守唄
わたしの城下町
好きだともいえずに
歩く川のほとり
ゆきかう人に
なぜか目をふせながら
心は燃えてゆく

間奏

家並がとぎれたら
お寺の鐘がきこえる
四季の草花が咲き乱れ
わたしの城下町
橋のたもとにもる
あかりのように
ゆらゆらゆれる
初恋のもどかしさ
きまづく別れたの

サビ

橋のたもとにもる
あかりのように
ゆらゆらゆれる
初恋のもどかしさ
きまづく別れたの



昭和62年（1987年）

作詞	山口	洋子
作曲	弦	哲也

1

たどりついたら

岬（みさき）のはずれ

赤い灯がつくぽつりとひとつ

いまでもあなたを待ってる

いとしいおまえの呼ぶ声が

俺の背中で

潮風（かぜ）になる

夜の釧路は雨になるだろう

間奏

2

ふるい酒場で

噂（うわさ）をきいた

窓のむこうは　こがらしま

じり

半年まえまでいたという

泣きぐせ　酒ぐせ　涙ぐせ

どこへいったか細い影

夜の函館霧がつらすぎる

空でちぎれる　あの汽笛さえ
泣いて別れる　さい果て港
いちどはこの手で　抱きしめて
泣かせてやりたい　思いきり
消えぬ面影　たずねびと
夜の小樽は　雪が肩に舞う





昭和 47 年（1972 年）

作詞	山上	路夫
作曲	平尾	昌晃

1

瀬戸は日暮れて夕波小波
あなたの島へお嫁にゆくの
若いと誰もが
心配するけれど
愛があるから大丈夫なの
段々畑とさよならするのよ
幼い弟行くなと泣いた
男だったら泣いたりせずに
父さん母さん大事にしてね

2

岬回るの小さな船が
生まれた島が遠くになるわ
入り江の向こうで
見送る人たちに
別れつげたら涙がでたわ
島から島へと渡って行くのよ
貴方とこれから生きてく私
瀬戸は夕焼け明日も晴れる
二人の門出祝っているわ

悲しい酒

1966年（昭和41年）6月10日に発売、『第17回NHK紅白歌合戦』では紅組のトリとして歌唱された。



悲しい酒

美空ひばり

作詞：石本美由起
作曲：古賀 政男

ひとり酒場で 飲む酒は
別れ涙の 味がする

飲んで棄てたい 面影が
飲めばグラスに また浮かぶ

セリフ

ああ別れたあとの心残りよ
未練なのね あの人
の面影
淋しさを忘れるために
飲んでいるのに

酒は今夜も私を悲しくさせる
酒よどうして どうして
あの人を
あきらめたらいいの
あきらめたらいいの「

2

酒よ心が あるならば

胸の悩みを 消してくれ

酔えば悲しく なる酒を

飲んで泣くのも 恋のため

3

ひとりぼっちが 好きだよ

と

言った心の 裏で泣く

好きで添えない 人の世を

泣いて怨んで 夜が更ける

いばり最後の歌う映像



北国の春

昭和52年（1977年）

作詞 いでたく
作曲 遠藤実





しらかば 青空 南風

こぶし咲くあの丘 北国の

ああ 北国の春

季節が都会ではわからないだろ
うと

届いたおふくろの小さな包み

あのふるさとへ帰ろかな 帰ろ
かな



雪どけ せせらぎ 丸木橋

からまつの芽がふく 北国の

ああ 北国の春

好きだとおたがいに言いだせな
いまま

別れてもう五年あのこはどうし
てる

あのふるさとへ帰ろかな 帰ろ
かな



やまぶき 朝霧 水車小屋
わらべ唄聞こえる 北国の
ああ 北国の春
兄貴もおやじ似で無口なふたり
が
たまには酒でも飲んでるだろか
あのふるさとへ帰ろかな 帰ろ
かな



千 昌夫

思い出酒

昭和54年
(1979年)



作詞	高田	直和
作曲	梅谷	忠洋

1

無理して
飲んじやいけないと
肩をやさしく抱きよせた
あの人どうして
いるかしら
噂（うわさ）をきけば
あいたくて
おもいで酒に
酔うばかり

2

ボトルに
別れた日を書いて
そつと涙の 小指かむ
あの人どうして
いるかしら
出船の汽笛ききながら
おもいで酒に
酔うばかり

いつかは忘れる人なのに
飲めば未練がまたつのる
あの人どうしているかしら
くらしも荒れた
このごろは
おもいで酒に酔うばかり



無理して飲んじゃ いけないと
勉強喝悶酒是不行的

昔の名前で出ています

昭和50年（1975年）
小林旭が発表したシングル



作詞：叶 弦大
作曲：星野哲郎

1

京都にいたるときや
忍と呼ばれたの
神戸じゃ渚と名乗ったの
横浜の酒場に戻った
その日から
あなたがさがして
くれるの待つわ
昔の名前で出ています

2

忘れたことなど
一度もなかったわ
いろんな男を知るたびに
いつもこの胸かすめる
面影の
あなたを信じて
ここまできたわ
昔の名前で出ています

あなたの似顔をボトル
に書きました
ひろみの命と書きました
流れ女のさいごの
止まり木に
あなたが止まって
くれるの待つわ
昔の名前で出ています



夜霧よ今夜も有難う



製作1967年
裕次郎(当時33歳)

作詞 浜口庫之助
作曲 浜口庫之助

1

しのび会う恋をつつむ夜霧よ
知つてゐるのかふたりの仲を
晴れて会えるその日まで
かくしておくれ夜霧夜霧
僕等はいつもそつと云うのさ
夜霧よ今夜も有難う

2

夜更けの街にうるむ夜霧よ
知つてゐるのか別れのつらさ
いつか二人でつかむ幸せ
祈つておくれ夜霧夜霧
僕等はいつもそつと云うのさ
夜霧よ今夜も有難う

せんせい

歌手：森昌子
作曲：遠藤実
作詞：阿久悠



1

淡淡い初恋消えた日は
雨がしとしと降っていた
傘にかくれて 棧橋で
ひとり見つめて泣いていた
おさない私が胸こがし
慕いつづけたひとの名は
せんせいせんせいそれはせ
んせい

2

淡声を限りに叫んでも
遠くはなれる連絡船
白い灯台絵のように
雨にうたれて浮かんでた
誰にも言えない悲しみに
胸をいためたひとの名は
せんせいせんせいそれはせ
んせい



さび

淡恋する心のしあわせを
そつと教えたひとの名は
せんせい
せんせいそれはせ
んせい

祝い酒

デビュー30周年記念
坂本冬美コンサート

ABS朝日

歌	阪本冬美
作詞	たかたかし
作曲	猪俣公章

1

浮世荒波 ヨイシヨと越える
今日はおまえの
晴れの門出だよ
親が咲かせた命の花が
二つ並んだ鶴と亀
笑顔うれしい祝い酒

2

五臓六腑に樽酒しみる
酔うてめでたい
唄のはなむけさ
七つ転んで
八つで起きろ
明日は苦勞のふたり坂
縁がうれしい祝い酒

花も嵐も人生航路
愛が舵とる

若い二人だよ

吹けばとぶよな

小さな木でも

枝は栄える葉もしげる

門出うれしい祝い酒



俺はお前に弱いんだ



石原裕次郎
ベストヒット
30

唄 : 石原裕次郎
作詞 : 石巻宗一郎
作曲 : バッキー白片

1

つれないそぶり したけれど
俺の胸は 燃えている
好きだと云えぬ なぜ云えぬ
古い傷あと あるからさ
ただそれだけ

2

いつも別れる さよならと
暗い露地の 曲り角
やさしく抱いて なぜやれぬ
うぶなお前を みつめたら
ただ泣けるぜ

3

今日もあしたも あえるのに
無理を云って 困らせる
叱ってやれぬ なぜだろう
俺はお前に 弱いんだ
ただそれだけ

大阪の女



大阪の女
ザ・ピーナッツ

1970年に発表されたザ・ピーナッツの楽曲である
ジャンルはポップスながらも演歌調の歌唱となった。

作詞:橋本淳
作曲:中村泰士

1

まるで私を責めるように
北の新地に風が吹く
もっと尽くせばよかったわ
わがまま言っで困らせず
泣いて別れる人ならば

2

とても上手に誘われて
ことのおりはこのお酒
がまんできずに愛いたの
悪いうわさも聞いたけど
やさしかったわ 私には

北の漁場

作詞：新條力才ル

作曲：櫻田誠一

唄：北島三郎

1986

1

いのち温めて酔いながら
酒をまわし飲む
明日の稼ぎを夢に見て
腹に晒し巻く

海の男にやヨ凍る波しぶき
北の漁場はヨ男の仕事場サ

2

沖は魔物だ吠えながら
牙をむいてくる

風にさらした右腕の
傷は守り札

海の男にやヨ

雪が巻いて飛ぶ

北の漁場はヨ男の遊び場サ

銭のおもさを数えても

帰るあてはない

二百里をぎりぎりに

網をかけてゆく

海の男にやヨ怒が華になる

北の漁場はヨ男の死に場所サ



おかあさん

昭和49年（1974年）

作詞	神坂	薫
作曲	遠藤	実



1



やせたみたいね

おかあさん

ふざけておぶって感じたの

泣き虫だったわ ごめんなさ

いね

明るい娘になりました

なやみがあつたら私にも

今度は下さい おかあさん

2



びつくりしたでしよ

おかあさん

思わず起こしてしまつたの

二度とその目が あかないよ

うで

寝顔をみてたら泣けたのよ

優しく笑った顔をみて

安心しましたおかあさん



感謝をしています おかあさん
たまには肩もみしましょうね
花嫁衣裳を着るそれまで
だいじようぶなんて
云わないで
長生きしてね いつまでも
きれいな空です おかあさん



お元気で！



また、お会いできる
ことを
楽しみにしています

マロンウェーブ